

「池田町地方創生総合戦略」
改訂に向けた議論の概要

令和3年2月
池田町・地方創生戦略町民会議

■これまでの経過

地方創生町民会議は令和2年2月20日に第1回を開催し、18名の委員が委嘱され、これまで11回の協議を重ねてきました。協議の内容は以下のとおりです。

会議	開催日	協議内容等
第1回会議	令和2年 2月20日	委員委嘱 第1期の取組み報告
第2回会議	6月24日	すみか分野の協議 ・町営住宅の整備について ・定住・移住コンシェルジュの設置と空き家の活用について
第3回会議	7月21日	すみか分野の協議 ・居住空間の確保における住宅整備支援制度について ・生活環境の改善・強化（雪や交通）について
第4回会議	8月6日	しごと分野の協議 ・産業創造・雇用創出について
第5回会議	8月20日	しごと分野の協議 ・産業創造・雇用創出について（続き）
第6回会議	9月3日	すみか分野の協議 ・豊かで美しい自然・景観の形成について しごと分野 ・域内循環型経済の活性化について
第7回会議	10月8日	すみか・しごと分野の振り返り
第8回会議	10月29日	なかま分野の協議 ・子育て支援（支給・助成）事業等のあり方について
第9回会議	11月12日	なかま分野の協議 ・子育て支援（支給・助成）事業等のあり方について
第10回会議	12月10日	なかま分野の協議 ・自治支援策の活用方法について
第11回会議	令和3年 1月7日	なかま分野の協議 ・地域で未来を考える場について

■第1期総合戦略の評価

<すみか>

1-1 居住空間の確保

【成果】

- 町営住宅の建設、住宅建設の補助により移住定住者数は増加している。
- 住宅改修補助により、空き家の活用が広がった。
- 住宅補助は、結婚後の新築、子供部屋の改築など若者世帯の評価が高い。
- 高齢者向けの住宅改造も在宅生活を続ける上で重要な施策となっている。

【課題】

- 地域の中で、「つなぎ役」となる人がいないと地域に溶け込むのは難しい。
- 住宅補助はメニューが多くわかりにくい。
- 空き家件数と比べて暮 LASSEL への登録数が少ない。
- 農地とセットだと空き家の活用が進みやすい。

【方向性】

公助関係

- 住宅補助は他市町と比べても高額であり、メニューにより補助額の差も大きいので、補助金の整理が必要。
- 補助を受けた場合、定住期間が条件として設定されている場合は、分割での補助も検討。

自助・互助関係

- 移住者受入は、希望する集落で実施する。(町営住宅の建設等)
- 集落は、集落の課題共有にもつなげる「集落の教科書」づくりを進めるとともに、移住を受け入れられるよう地域の意識醸成を図る。
- 集落も空き家所有者に暮 LASSEL への登録を働きかけるよう取り組む。
- 集落も移住者との関係を深めるために、世話役を設けるなどに取り組む。

1-2 生活環境の改善・強化

【成果】

- 屋根雪下ろしチームが発足し高齢者の安心につながっている。
- 町民協働バス「マイバス」が運行開始したことにより、高齢者の足の確保だけでなく、高校生も利用できるようになった。
- マイバス以外の交通施策も充実していることにより、不便さの解消が図れている。
- 秋に、景観向上にもつなげる畔の草刈りが行われた。

【課題】

- 屋根雪下ろしは時期が集中することから融雪補助も必要。
- 集落での区内道除雪には、営農トラクター等の利用を検討することも必要。

- 景観の日を設け統一行動するなどしないと、景観について考えることにつながらない。

【方向性】

公助関係

- 断熱性能の優れた住宅づくりの促進も検討。
- 公共交通の支援は継続。
- 景観を守るためには一定の規制（ルール）は必要。

自助・互助関係

- 今後は、集落単位での移送の取組みも必要になってくる。

<しごと>

2-1 地域内循環型経済の活性化

【成果】

- 食ラボやウッドラボができ、地域資源の6次化に寄与している。
- 自然エネルギー活用への動きが、公共・民間ともに始まった。
- 町で観光戦略の見直し・強化が図られている。

【課題】

- 観光関係事業者間の連携が少ない。
- 食Uターン事業への取組み家庭、回収ボランティアの数が減少している。
- こっぽい屋に出荷する人も出荷量も減少している。
- 交流人口・関係人口拡大のための事業展開を図り、認知度・魅力度を高めていく必要がある。
- 地元での購買率を高めるため地域応援券を発行しているが、事業者の撤退が続いている。

【方向性】

公助関係、自助・互助関係

- 農村体験型の観光や教育旅行の一層の振興。
- 地産地消や農業の総合産業化へ取組みをさらに進める。
- 地域資源循環型社会の構築に向けた普及活動を推進する。

2-2 就労機会の拡大・多業化の促進

【成果】

- IT インフラ（光ファイバー）の整備が進むことになった。
- ワクラボが整備され、多様な業種の事務所がオープンした。
- 食ラボが整備され、商品開発に取り組む人材が増えた。
- 女性をはじめとする多様な人材が活躍できる起業があった。

【課題】

- 新規就農者の育成が進まない。

- 町内には魅力のある満足度の高い仕事が少ない。
- 雇用が生まれるまでの起業にはつながっていない。
- 起業にも個人経営型と雇成型があるが、補助金に区別（差）がない。
- 事業者も若者に支持されるよう施設面や雇用条件等の改善が必要。

【方向性】

公助関係

- 起業に際しては、高額な補助金をつけるのではなく、身の丈にあった起業を側面から支援する。
- 町内での就労機会の拡大を目指すだけでなく、新たな支援は必要ないが、町外での就労の拡大についても視野に入れる。

自助・互助関係

- 農福連携などの取組みを検討する。
- 半農半Xなど様々な生き方を提示していく。

<なかま>

3-1 地域・集落での連帯力の向上

【成果】

- ご近所防災計画は全集落が作成。

【課題】

- 自治活動への補助金による支援は行っているが、新たな活動に発展していない。
- 地域の互助活動による福祉サービス等は生まれていない。
- 集落の寄合には若い人は出てこない。意見も出しにくい。
- 「ちょっといいですかまちの話」の利用が少ない。行政も積極的でない。

【方向性】

公助関係

- 「ちょっといいですかまちの話」を普及し、自治検討の入口とする。

自助・互助関係

- 土地改良事業を契機に集落自治・地域自治を進める。
- 集落の住民皆が参加でき、集落の未来や課題を議論できる組織づくりが必要。

3-2 家族・子育ての幸福度の向上

【成果】

- 妊娠・出産・子育てに係る切れ目ない支援の実施により、身体的、精神的、経済的負担が軽減され、安心した子育てができる環境が充実した。
- 社会福祉協議会が「すみずみ子育てサポート事業」を提供するようになった。

【課題】

- 男性の子育て参加が不十分。

○子育て支援関係の補助金の支給方法等の拡大は必要か。

【方向性】

自助・互助

○顔の見える小ささを強みとする農村ならではの子育て支援が可能。

○民間団体が実施している子育てサロンなどにも関心を持ち協力もする。

3-3 池田の教育への意欲の向上

【成果】

○コロナ禍にあって、学習機会の確保のため、分散教育やビデオ学習等にいち早く取り組めた。

○GIGA スクールに向けた環境整備を実施した。

○チーム・ティーチング等、小ささを生かしたきめ細かな教育ができた。

○協同的学び「アクティブラーニング」や、地域の教育力を生かす授業が進んだ。

【課題】

○就職時の池田離れを防ぐことは難しい。

○子どもへの郷土愛を育てるには、大人が郷土に愛情を持つことが重要。

【方向性】

公助関係、自助・互助関係

○地域と学校の連携・協力活動の充実。

自助・互助関係

○地域社会活動が行える環境（子どもにも役割を持たせる）ことが必要。

参考資料 これまでの議論の概要

1. すみか

1-1 居住空間の確保

- 地域の中でつながりをもってくれる人がいないと難しいため、また、仕事の都合等で参加できない人もいるため、町営住宅の入居者と地域の人に関わる機会が少ない。
- 町営住宅の整備が必要だが、町営集合住宅より空き家の活用の方が集落に溶け込みやすい。
- 町営住宅の家賃は妥当だが、住宅補助はわかりにくい。
- 空き家の件数と比べていけだ暮 LASSEL への登録が少ない。
- 移住者を受け入れたい集落を募集し、町営住宅の建設や空き家の改修・活用をする。
活用事例・モデル集落の区長会での共有
- 集落の年間行事、奉仕作業、区費、集落のこと、共有財産、屋号、決まりなど集落の「教科書」や「地図」を作る。区長会での共有
- 町営住宅入居者や空き家への移住者が集落との関係を深めるためには、いけだ暮 LASSEL だけでは難しいので、集落の「世話役」を作る。共同作業、同世代の声掛け、区長会での共有
- 空き家や空き土地の活用の促進のため、集落からも空き家の持ち主にいけだ暮 LASSEL への登録を働きかけ、持ち主や区長との情報共有の仕組みを考える。
- いけだ暮 LASSEL が民間と協力して改修・活用方法を提案できるようにする。
- 先人が山や田の手入れをして美しい池田町が保たれているため、空き家は山や隣接の農地付きにして、池田の方の支援を受けて山や田畑を守る。
- コロナの影響で在宅での勤務もとれるような、光など通信網の整備・環境にしていると、池田に住みながら仕事もできるという人を呼び込めるのではないか。
- 多世代化の補助金を新築・増築の補助金に合わせる。ただ、補助がなくても池田に住みたいと人に来てもらえる町にしていく。
- 農林業に携わる場合は、空き家の母屋に加えて、機具を入れる納屋や蔵も空き家改修補助対象に含める。
- 役場として、住民として、入居・移住前にどう対応する、入居・移住後にどう対応すべきか、また、集落として対応する部分と個人が対応する部分を再整理する。

1-2 生活環境の改善・強化

- 屋根雪のどんな対策（融雪（電気・灯油・水）・落雪（傾斜・トタン）・耐雪）があるのか費用（初期費用、維持費）がどのくらいかわからない。
- 屋根雪下ろしはどうしても同じ時期に集中するので、融雪補助も必要だ。
- 大雪の時は区内道の除雪は地域の住民だけでは対応できないこともある。手押し的小型除雪機購入の補助や集落営農保有の除雪機など活用できないか。
- 公共交通の支援はありがたい。車を持たない観光客向けの移動手段も必要だ。高齢者の送迎など集落単位で気軽に頼める仕組みが必要だ。75歳以上の安全装置整備制度の充実も必要だ。
- 景観に関して、米を作る過程で3回は必ず草刈りをするが、収穫した秋以降の4回目以降は景観のためになる。
- 融雪や雪下ろしグループなど情報をもっと提供する。
- 断熱は住宅補助とうまく連携して導入を図る。
- 雪下ろしは登録を呼びかけると移住者の冬季の仕事となり得る。
- 公共交通の「マイバス」は、福井駅方面に出かける人に合わせた平日や週末の日中便の時刻表にすると良い。
- 「景観」について、池田の環境、景観を守るため、決まりに基づいた規制は必要だが、併せて池田の景観に対する想いも伝わると良い。
- 農業者以外の景観への取組みに対する参加の課題があるので、景観向上日として足並みを揃える日があっても良い。
- 池田町の米作りによって池田町の農村景観が守られているということが、米を購入する消費者も実感できれば良い。
- 年1回の里帰りの際に景観向上のための集落や自分の敷地の草刈りや懇親会をしたり、農村体験として獣害防止のための柿とりをしたり、町内の若い移住者なかまも含め、応援団的に関わりを持つようにすると良い。地区の公民館的活動としても広められる。

2. しごと

2-1 地域内循環型経済の活性化

- 農業については、稲作だけでは経営が厳しい。また、高齢化で園芸も圃場が減っているし、山菜出荷量も減っている。
- 林業については、需要が少なく、木を切り出せるようになるまで50年以上かかる難しさがある。
- 観光業については、事業者間の縦横の連携が少ない。
- 地域資源循環：食Uターン事業の普及・リサイクルの実施などの「循環」活動に関わる人やリサイクル率が減っている。
- 地産地消について、お店が近くにまとまっていない。こってコテの移動販売車は好評だ。
- 農業については、多角化、複合化、大規模化で一つにまとまって池田町の一つの農業体として基盤整備、適地適作、地域連携して園芸作物にも取り組む。加えて、農業公社、個人の農業経営者、自給的な農業だが農地に関心を持っている人たちも踏まえ、米を基幹的に据えながら、野菜生産の目標や畜産の目標など、将来像や見通しと共に想定する。
- 畑をすると地域の方も出てきて何をしているか聞いたり、手伝ったりしてくれ、地域も元気になる。自分で作った野菜を家族に食べさせたいという楽しみにもなるので、小さな芽を少しずつ広げていきたい。
- 林業について、山の活用、バイオマス等、雇用の促進に加え、環境の町が重要ではないか。池田は空気がきれいで、他とは匂いも違うので、環境を壊さないようにしたい。作業道を作り、バイオマスとなる木を伐採し、大きい木を育てる。
- 観光業については、農家民宿は、移住定住促進や空き家対策となる。複数の地域の仕事の組合せで働く人が働く場を動いていくので雇用が生まれるのではないか。
- 生ごみから土塊醸になるまでの「循環」活動の広報を行い、事業を作った思いや歴史を次世代につなげる。
- 地産地消につき、池田の安心安全の野菜を給食で使う、また、こってコテいけだや食ラボで使う取り組みを考える。

2-2 就労機会の拡大・多業化の促進

- 農業の人材が不足している。
- 池田町で魅力のある仕事が少ない。
- 池田町にない光通信網を今後整備し、将来を見据え、IT 関連等に対する支援が必要になるのではないか。
- 地域福祉について、高齢化で需要が増えていくので、空き家等を活用してサロンなど行い、ちょっとした手助けをする人材登録をするのはどうか。
- 幸寿苑の前の畑でハウス栽培利用者も農業を体験し、若者に来てもらえるような施設、働き方、雇用条件が必要でないか。
- 農業公社で人材育成を図り、経営も学べるようにして、後に地域で活躍できるようにする。
- 異業種間の連携・交流をして、複業ができるようにしたり、地元で仕事をまわせるようにしたり、どのようにコミュニケーションをとるのかなど話をする機会を作ったりする。
- 起業補助については、個人・家族経営型と雇成型とで差をつけるよう見直す。
- 商品開発支援については、商工会や町内企業と連携し、経営指導など行ったり、6次化を複数事業体で連携して取り組んだりする。
- 半農半Xなど様々な生き方を提示でき、その選択をみな応援する。
- 町外で働く町民に対する支援は、町民としての支援はあるので新たには不要であろう。
- 第3セクターへの支援は雇用創出の面からも必要だが、経営改善も必要だ。
- 仕事の満足度も考慮しないと定着度にも関連する。
- 観光産業以外の起業について、観光以外でパーマ屋など池田に必要な仕事だ。例えば、美容室の方も高齢になってきているので、家業の継承のみでなく、都会から戻って来た若い美容師が家で開業・新規参入する場合などの創業支援が必要だ。

3. なかま

3-1 地域・集落での連帯力の向上

- 「ちょっといいですか？まちの話」について、まだ十分に周知されていない。また、参加者が少人数だと恐縮してしまう。
- 「コミュニティ育成事業」について、補助金を使うと失敗できないという不安が付きまとうし、補助が出る手間をかけるのが面倒くさい。
- 話し合いで否定的提起が多い傾向にあると思われる。
- まず集落で話し、難しい場合は、「ちょっといいですか？まちの話」で行政の方に話してもらおう。
- 「ちょっといいですか？まちの話」の項目一覧化やわかりやすい説明など考えていきたい。住民の方も積極的に申し込んで欲しいし、役場から出ていくという姿勢が見えると良い。
- 「コミュニティ育成事業」について、いま各所で土地改良の整備事業が行われ、水田等が大きくなり、機械も大型化になっている。農業経営も10年後に向けた再編も考えなければならないので、集落営農が能ある田家会議などの組織づくりで本事業を活用し、準備しながら徐々に土地改良をし、農業経営が進んでいけば良い。
- 「コミュニティ育成事業」について、補助を使う不安を取り除くような町の対応があると補助が使いやすくなる。
- 目指す姿は老若男女みんなで組織の再編、活動の策定、現在の体制の見直しなどする。
- 目指す姿は高齢化が進んでいる地域のため福祉的な活動と空き地対策にもなる農業を結び付ける農福連携などで自分たちが小さな一歩を踏み出す。
- 目指す姿に取り組んでいくには移住者受け入れが必要なので、寄合でまずは集落の機能が存続するように集落の教科書を作り、移住者を受け入れるか受け入れないかの話をする。
- 夢を語り合う仲間が大事という点は、この会議は、どうやったら楽しくなるかという話が多いと盛り上がる。みんなができる第一歩として、何かしら考えが出たら、まずは「いいね」と言う聞く力を全員で持てば、気楽に話せるようになるのではないか。

3-2 家族・子育ての幸福度の向上

- 高校への通学が不便なので、部活動の後等に友達と交流する時間が少なく、友達ができにくい。また、子どもが少ないので、競争心が生まれにくい。部活動の数も選択肢も少ない。
- 3歳まで育休を取得した時に経済的に不安がある世代、子育て中には支援が必要。
- 保険をかけていても怪我したらどうしようとリスクを考えてしまう
- 「ママがんばる手当」は、今の制度は一律なので、総額は一定にして、5年間や高校までなど薄く広くする。また、一部を大学進学時や就職時に池田で育った子にお祝い金として支給する。
- 「ようこそ赤ちゃん事業」は、金額を少し下げ、第2子、第3子への支援も必要でないか。また、働けない母親への経済的不安や心の不安を解消するのに必要。ただ、所得制限を設けても良いのでは。また、ベビーベッドやベビーカーなど子ども用品は一時的なものなので、不要となった人が必要な人に譲ったり借りたりできたりすると良い。社会福祉協議会の「すみずみ子育てサポート事業」は、出産してから1か月間程度、家にご飯を作りに来てくれ、非常に助かるので、続けて欲しい。
- 「ほっと保育室」は、人件費等がかかっているのので、有料にしても良いのではないか。「ほっと保育室」は、1日や半日単位で有料として良いのではないか。また、子連れ出勤で仕事をしつつ授乳もできるような子育てにやさしい事業所への支援もあって良いのではないか。
- 地域の取組みをすることで、自分の存在と過去とのつながりを子どもたちに伝えられ、子どもたちが大人になってからも、池田への思いを持ち続け、池田に帰ってきてくれるのではないか。また、改めて誇りを取り戻す、改めて元気になるきっかけになるのではないか。
- 子育ての不安を解消できるママ会やお茶会等の仲間による精神面の支援もあると良い。
- 農業や農村の小さな強みを生かすことが必要ではないか、また、集落や地区で子ども見守り活動や地域の行事への参加を促すことが必要
- 「子育てに男性の参加不足」という点は重要だ。働き方改革、働き方の問題とも関係するが、夫が子育てに加わらないといけないのではないか。父親の育児休暇を支援する制度のようなことも男女共同参画社会では必要ではないか。
- 地域で子育てを応援する場合、集落や近隣だけでなく、子育てサロン活動を行っている「いけだのそら」のような団体にもっとみんなが関心を持ち、積極的に協力していくかも大事だ。
- 家庭の中で子どもに、ここで暮らせることは凄く良いことだと伝えないと子どもも残らない。池田町を残したいと思うなら一人一人が行動することが大事だ。
- 2人目・3人目の出産を躊躇している人たちを一步後押しし、持続的に子育てできる環境を整える。

3-3 池田の教育への意欲の向上

- 補助をもらうのが当然と思っている人もいるようだ。
- 大人が子どもに範を示せず、否定的なことを言ったり、ため息ついたり、ポイ捨てる。
- 学校で行う農業体験は非常に充実している。学校の取組みで村 de キャンプや俳句など子どもにとって良い経験になるが、学校に直接関係ない人も参加できれば、更につながりが出来て、様々な交流ができるのではないか。
- 「入学支度金支給事業」は池田離れを防ぐため、大学進学時など時期を変えても良いのではないか。
- 「通学用定期券助成事業」について、池田に住んで欲しいという目的を打ち出して、不便さはあるが、安心して暮らせる一つの方法として、制度に込められた思い、感謝の気持ちを十分にくみ取って利用すれば、この制度は生きていくのではないか。
- 子どもたちの『育つ力を育てる』ための地域と学校の連携・協力について、地域の方々は様々な長い人生経験の中から多くの引き出しを持っていて、そこから貴重なものを子どもたちや地域に活かしていくための場の設定、その引き出し役が必要だ。
- 様々な形で地域を学べることが結果的に子どもたちに人間そのものの信頼感や人間肯定的な力を育み、子どもたちの大きな成長になり、経験を持って活動される方の生きがいにもなる。
- おうちの手伝い推進運動も非常に大事ではないか。子どもの成長にも役立つし、家族の絆もつながるし、大きくなってから池田の愛着も折々に出るのでないか。
- 自習寺子屋の構想は、中学生の自死があり、二度と池田で起こって欲しくなく、家庭や学校以外の第3の場であり、学校の宿題や読書やポーと座って考えていても良いが、自分でこれをやろうと思うことをできる場として考えている。それが発展していけば、山遊びの回や川遊びの回や田んぼ遊びの回など皆さんと協力していけるのではないか。
- 地域では、郷土愛を育てることが非常に重要になるが、それには子どもたちの居場所を作るのが大事で、お祭りとかどんど焼きなど昔から大事にして長い間培われてきた行事が居場所となる。行事を教えることで子どもたちの郷土愛を育てていけるし、大人が範を示すため心がけることもある。
- 地域社会的活動をする子どもたちが出やすくなり、池田に対する思い出づくりが必要だ。町民体育祭やお祭りの復活など良い思い出を子どもたちに多く作ることで、子どもたちに役割を持たせること、発表する場をしっかりと作ることが必要だ。
- 池田で子育てしたい、池田で子どもに教育を受けさせたいという人が増えるよう、池田丸ごと学校とか、池田みんな子育てのような特色というのを私たちが一緒に作っていければ魅力になると思う。それが行政の補助や学校教育だけでは、特色になり切らないと思う。